

## 平成 24 年度施策評価（二次評価）案

＜健康領域：人の健康＞ ＜基本目標 1：一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち＞

**個別目標 1－1 「心身の健康を維持・増進する」**

一人ひとりが健康を意識し、健康づくりに取り組み、身体・心の健康が維持・増進される環境をつくれます。

市民意識調査によると、「あなたは、健康であると思う」と「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う」との2項目については、前回調査との比較において、いずれも肯定的な回答が増加しており、健康を意識している市民が増えてきていることがうかがえます。各種検診の推進により、疾病が早期に発見され、市民の健康維持に繋がっているかは、この先数年かけて検証していくことが必要と思われますが、受診率の伸び悩みについては、働く世代を中心により一層のPRに努めるとともに、各種検診をより受診しやすくする工夫が必要と考えます。

また、自殺者の割合は、平成 23 年度には県の平均値を下回り、これまでの取り組みが自殺者の減少につながっているのではないかと考えられます。今後も、自殺予防に向けた意識啓発やこころサポーターの養成などに継続的に取り組み、自殺者数をさらに減少していくことが望まれます。

## 平成 24 年度施策評価（二次評価）案

《健康領域:人の健康》 <基本目標 1 : 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち>

**個別目標 1-2 「いつでも必要な医療が受けられる」**

救急医療体制を充実するとともに、地域の医療施設と市立病院が連携し、必要なときに適切な医療を受けられる体制を整えます。

休日夜間急患診療所における一次救急医療や、市内 5 病院の輪番制による二次救急医療、さらには電話による 24 時間健康相談の実施など、傷病の程度に応じた診療を可能とする医療体制の確立に努めてきたと言えます。また、市立病院の経営状況が改善されている点については高く評価するものであり、加えて、医師、看護師の充足や診療機能の強化は、医療に対する市民の安心感の向上に寄与しているものと思われます。しかしながら、大和市全体では救急医療における年間取扱患者数の推移において、軽症患者が二次救急医療機関を受診しているケースが依然として多くみられます。今後、人口に占める高齢者の割合が急速に高まっていくことも予想され、軽症患者による二次救急受診の増加が救急医療体制を圧迫し、中度、重度患者への対応に支障が生じることが懸念されるため、適正受診の勧奨などについて様々な視点からのアプローチを検討する必要があると思われます。

## 平成 24 年度施策評価（二次評価）案

《健康領域:人の健康》 <基本目標 1 : 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち>

個別目標 1－3 「支えあいによる地域福祉を推進する」

自助、共助、公助の役割分担を踏まえた支えあいによる地域福祉を推進します。

市民意識調査によると、地域社会における支えあう人のつながりについて、前回調査との比較において肯定的な回答をした割合が増加しており、支えあう地域社会の実現に少しずつ近づいていることがうかがえます。一方、行政が提供している各種サービスや支援制度については、その利用率や満足度が必ずしも高いものではないことから、行政が考える以上に多様化する対象者のニーズに的確に対応していく必要があると考えられます。

また、近年、社会問題化している生活保護に関しては、本市においても受給率の増加がみられることから、今後は、これまで以上に就労支援を強化し、生活保護世帯の自立につなげていく必要があります。

いずれにしても、急速に高齢化が進んでいく中であって、より充実が求められていく地域福祉施策の推進については、自助や公助はもとより共助の重要性が一層増すものと考えられます。今後は、共助の充実を図るため、地域活動団体やNPO法人が行う支え合いの取り組みを更に推進するとともに、社会福祉協議会などによる人材育成も含め、地域福祉の担い手づくりを強化していくことが必要と考えます。